

あかりだより

No.25

発行：2015年8月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：竹林 康光

母の日



☆パウンドケーキ☆



☆コサージュ☆

感謝の気持ちを込めて

「いつもありがとう!」「いつまでも元気でいてね」などのメッセージを添え、
今年は全て手作りにこだわり、両親にプレゼントしました!

父の日



☆ピクルス☆



☆写真入りメッセージカード☆

親孝行 あかりの家

「料理は手先も使うし、道具も使う。レシピも見ながら会話もはずみ、もてなした相手に感謝もされる。療育内容の詰まった宝庫です。是非あかりの家で料理をしてみてください」と、スーパーバイザーの河島先生から励まされ、昨年のあかりの家では、料理ブームが湧きあがりました。そして行き着いたテーマは手作り料理で「親孝行」。

《その1》園内夏祭り ～カレーライス～

「お父さん、お母さんに喜んでいただけたらいいですね」など話しながら、夏祭り前日から意気込み、130食に挑戦。真剣な顔で、本当に熱心にカレー作りに励みました。

当日、保護者会のお母さん方にフラダンスで祭りを盛り上げていただき、とても明るい気分で、賑やかで楽しい時間を過ごしました。



《その2》忘年会 ～サツマイモのポタージュ&クッキー～

厨房の忘年会料理に、利用者が作ったさつまいものポタージュの一品を添えることになりました。

レシピは栄養士さんからもらい、またまた前日からフル回転。使ったさつまいもの量は10キロ!...

また、お父さんお母さんにお家へ持って帰ってもらうためのお土産用のクッキーも作りました。



10キロ!のイモを、ひたすら!むく、切る。



両日とも、お父さんやお母さんから「おいしいね!」と声をかけられ、料理を頑張って作った利用者もニコニコ顔になりました。

あるお母さんから「うちの子に料理を振る舞ってもらえるなんて!」と感激していただき、また別のお母さんからは「お家で、親子で料理をしてみました」と嬉しい話もしていただきました。

「やってよかったな」と、私たち支援員も心の底から思いました。

あかりができて30年。初めて?の盛大な「親孝行」でした。

自閉症の人達中心の グループホーム オリーブの家 誕生

グループホーム オリーブの家 / 希望山荘日笠

今年度新たに今津理事のご協力の下、2つ目のグループホーム『オリーブの家』が誕生しました。

『希望山荘日笠』から移ってきた3名に、新しく入所した2名を加え、現在入居者5名、今日も元気にイキイキと過ごしています！



ぶつけないように慎重に…



ひとつ目のグループホーム『希望山荘日笠』の入居者の中から、自閉症の人を中心に希望を募り、3名の方が引っ越しをしました。

4月4日、オリーブの家の開設パーティーを催しましたが、大人数の中、3名とも緊張しながらも立派に挨拶ができ、拍手をいただきました。

その後、ご近所へ引越しの挨拶に行き、「何かお手伝いできることがあればいつでも言ってね。」と、温かいお言葉をいただき新生活のスタートを順調に切ることができました。

“新人”2人の挑戦!!

グループホームでのテーマの一つは“自立”です。その自立に向けて、初めてグループホームでの生活を始めた2人、頑張っています！



“新人”Aさん、衣類のしわをキッチリ伸ばす事ができるように取り組み中です！



“新人”Bさん、食後自分の食器を綺麗に洗えるように練習中です！

重度の自閉症の人たちの地域生活を応援

グループホーム管理責任者 坊垣 勝彦

家庭や入所施設から出て、地域生活を始める場合に、利用者の方・保護者の方が不安になるのは自然なことです。

社会福祉法人あかりの家では専任の職員を配置したほか、法人内他施設職員の定期的な宿直応援態勢を整え、困っている時にはすぐに手助けができるバックアップ機能を果たすこととしています。利用者の方も保護者の方も、安心して暮らせるように、法人全体で彼らの生活を見守っています。

サークル活動を通して育てる 自主性と生活の豊かさ

ワークホーム高砂

ワークホーム高砂の運営の基本は、働くことを通して豊かな人生を築くことです。これまでは、働くことへの応援が中心で、豊かな暮らしを自ら創り上げる視点に弱さがありました。そこで、昨年度から隔週水曜日の2時間をサークル活動に充てることにしました。

暮らしの豊かさは余暇時間の充実と比例します。サークル活動をとおして様々な楽しみ方を体験し、利用者自らが自分の暮らしを少しでも広げられるよう応援していきたいと思っています。

スポーツサークル

サッカーチームとウォーキングチームの2つが活動をしています。

サッカーチームは、ボールを蹴る楽しさと難しさを体験しながら、「相手」を意識することやチームの輪の大切さを学んでいます。

また、ウォーキングチームは、自然の中を歩き、四季の移り変わりを楽しみながら、働く上で基本となる体力の維持と向上を目標にがんばっています。



←相手を意識しながらパスを出します

園芸サークル

玄関前に花壇を作り花や野菜を育てながら、バーチャルゲームでは味わえない自然とのふれあいの素晴らしさを体験してもらっています。植物を育てる難しさを味わい、野菜が実ったときの喜びを満喫するなど、体験の広がり新たな感性を生み出せるようにしたいと思っています。



ワークホーム玄関前の花壇は、園芸サークルの人たちの力作です。



土に触れ、自然を感じることで豊かな感性が育っています。

写真サークル



写真を撮る真剣な表情が、豊かな人生を感じさせてくれます。

自分が思い描く写真をイメージし、撮りたい建物や乗り物など、その場所に出かけて写真の楽しさを体験しています。

利用者のほとんどがこれまでは「撮られる人」でしたが、今は「撮る人」を経験しながら、「写真」のおもしろさを感じてもらい豊かな感性を育てたいと思っています。



山と山の間から太陽が！
こんな素敵な写真も撮ることができるようになりました。



普根天満宮の池にナマズが…
思わずシャッターを切った1枚

地域支援センターあいあむ 開設2年目!

前身のあかりの家地域支援室から衣替えして「地域支援センターあいあむ」が開設してから2年目を迎えました。職員も増え今年度は11名で“チームあいあむ”を結成しています。

「あいあむ (I am)」の由来どおり “私は・・・” から始まる一人一人の願いに心を込めて、利用計画書を編む(愛編む)ことができるよう日々奮闘しています。

利用計画書相談大忙し

相談員は、朝から晩まで訪問。家庭訪問、事業所訪問、市役所訪問… 行けども書けども予約が殺到。まだたくさんの方にお待ちしていただいている現状です。申し訳ありません… 全力で頑張ります!!

利用計画表作成実人数 302人 (成人248人、児童54人)
H27/7 現在

あいあむ川柳

講演会に用いる川柳。あいあむのメンバーは常に利用者やメンバーの気持ちを川柳に詠むようになっています。ここでその力作を2つほど…

ご本人の思いを文章化するのに、とても頭を使います。が、その反動として…

計画相談
頭しぼるが
体絞れず

プロ野球の応援を諦めていたSさん。相談を通して本人の思いを掘り起こし、20年ぶりに阪神タイガースの応援に行きました。

相談で
あきらめてた夢
実現す



補助員さんと共に ♥

あいあむには3名の相談員補助員が配置されています。電話対応、サービス計画、モニタリング報告書等の入力作業、記録書類の整理など相談支援専門員にとって欠かせない存在となっています。

電話対応は相手の表情が見えないので、できるだけ明るく対応するように心がけています。
家庭訪問はちょっぴり緊張します…
いざ! 始まると一言一句聞きもらすまい! と真剣スイッチオンです。
補助員 F



高砂市障がい者自立支援協議会事務局

ワンだふるな地域生活を目指して活動している高砂市障がい者自立支援協議会の事務局を担っている『あいあむ』は、協議会のホームページで、協議会の活動内容や地域生活情報を日々更新しています。

日本一楽しいホームページ作りを心がけていますので『わんだふる 高砂』で検索して是非ご覧ください。

<http://wan-takasago.com/>

ぼく松の助(まつのすけ)ヨロシクね!!
高砂市障がい者自立支援協議会のキャラクターだよ
僕も活躍してるからホームページ見に来てワン!



身体を動かして 楽しく学ぼう!!

児童デイサービス あかりの家

児童デイサービスをはじめて4年目。今年は、小学校低学年のお子さんを対象に、“小学生集団療育”として、体操を始めました。

楽しみながらも、一人ひとりがルールを守り、友だちと力を合わせて達成する喜びを感じてほしい。そういったことを、体操を通して、楽しみながら学んでもらえたらと思っています。



背筋をピンと伸ばしてごあいさつ。
「おねがいます!」



体操の前に、まずはストレッチ
ゆっくり10秒数えます



フラフープに当たらないよう、身体の動かし方を工夫し、慎重に通り返けます

相手をしっかり見て、力加減や方向をコントロール
ボールをじーっと目で追って…上手くキャッチできれば大盛り上がり!



自閉症総合援助センター（構想）

「自閉症総合援助センター」は、全国自閉症者施設協議会前会長・元あかりの家理事の奥野あさけ学園前園長が、我々「自閉症者施設」の果たすべき、目指すべき方向として提唱された構想である。

自閉症の人たちへの支援には「生涯援助」の視点が欠かせない。「自閉症総合援助センター」は、各ライフステージに沿って、あるいはその時々々の状態や状況に応じて、高度な専門性と総合的で多様なニーズに対応するために必要とされる支援体制の構想である。

あかりの家も、様々な事業展開がかなり進んだ。しかし、「各事業の優位的な連携と関係者・関係機関との協働」という意味では、未熟である。今後、どうしても実現したい<構想>である。



発達障害の人たちへ応援に取り組んだ10年!!

ひょうご発達障害者支援センタークローバー

ひょうご発達障害者支援センター クローバーは、社会福祉法人あかりの家が兵庫県より委託を受け、平成15年12月に開設してから、平成25年12月で10年が経ちました。

発達障害のある人の相談支援を中心に、支援機関への講師派遣や支援者養成の研修会の開催などを通して、発達障害のある人の生活をしやすい街づくりの構築、支援体制づくりを行ってまいりました。10年間で発達障害を取巻く環境や、人、支援内容も変化し、現在も変化は続いております。

その中で発達障害のある人が安心して暮らせるために、これからも、さまざまな支援体制づくり構築に向けた取組を積極的に行っていきたいと思っています。

国の動き

クローバーの取組

2003年

ひょうご発達障害者支援センター開設



『自閉症らいふ Note』作成



2005年

「発達障害者支援法」施行

対象者別研修の開始
・ 幼児期支援者研修会
・ 教員養成研修
・ 就労者研修会

雇用リーフレット『働きたい』作成



加西ランチ 芦屋ランチ 開設

クローバーでは、発達障害のある方、ご家族の相談支援を継続的に行ってまいりました。相談実人数は、10年で4,117名(センター実績)にのぼります。相談の状況も変化しており、解説当初は幼児期の相談が多かったのですが、最近では成人期の相談が半数以上を占めるようになっております。

2006年

「障害者自立支援法」施行

「家庭療育支援講座」普及活動



講師派遣依頼の増加
・ 聴講者10,000人超える

2007年

特別支援教育開始

厚労省「発達障害者就労支援者育成事業」受託

『発達障害者支援BOOK』発行



「サポートファイル」の活用推進



2009年

自己啓発デー(発達障害週間)の実施

調査研究
・ 県下親の会支援ニーズ調査
・ 県下市町発達障害者支援状況調査

豊岡ランチ開設

「ペアレントメンター養成研修」実施

2010年

「障害者自立支援法」見直し 発達障害が支援対象に明確化

県委託事業受託の実施
・ 市町職員研修
・ ペアレントメンター研修
・ 医療従事者研修
・ 親の会ネットワーク事業

宝塚ランチ開設

相談者の障害種別も、知的障害を伴う自閉症の相談が多かったのが、知的障害を伴わない発達障害のある人の相談が多くなっています。相談内容も支援機関が増えるようになり、より複雑化した相談がセンターには寄せられるようになっております。

2011年

「児童福祉法」一部改正

おじいちゃん おばあちゃん向けリーフレット発行



上郡ランチ開設

2012年

県委託事業「発達障害児(者)への将来の進路や目標を持てる啓発活動」シンポ主催・支援BOOK発行



発達障害の支援は、開設当初、自閉症のある人への支援を除いて具体的には進められていない状況でした。そうした中、個々の支援を行う一方で、
①発達障害について知ってもらうこと
②支援のできる機関を増やすことを目的に研修、講師派遣、発刊物の発行等を積極的に行ってまいりました。

2013年

「障害者総合支援法」施行

発達障害への理解促進 サポーター養成活動
・ シンポ、講座主催
・ 新聞広告5回連載
・ リーフレット「ママあのおね…」発行



平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実習研修を受入れました

社会福祉法人 あかりの家

あかりの家では、平成26年9月と10月と12月にそれぞれ5日間、全国から計15名の方を受入れました。

この研修は、日本財団の助成により、(社団)日本自閉症協会と、全国自閉症者施設協議会が主催し、全国に発達障害者の支援の核となるスーパーバイザーを養成しようというものです。そのプログラムの一つに実務研修がありました。

社会福祉法人あかりの家も、全国自閉症者施設協議会加盟施設の受入先の15法人のひとつとして、実務研修を実施しました。



1. 企画の段階でのあかりの家での確認

- (施設長が全自協副会長という事もあって) 成功に向けて最大限の努力をする。
- (自閉症総合援助センター(構想)を掲げる法人として) 法人全体で取り組む。
- (この受け入れを機会に) より客観的で体系的な、施設と支援の説明言語を作り上げる。
- (この受け入れを機会に) 地域等での支援者養成に乗り出す第一歩とする。
- (支援のプロたちに見られることによって) 自分(達)の支援を客観的に見る機会とする。
- 閉じたり飾ったりする説明は避け、オープンで率直な説明に努める。

2. 実務研修プログラム

	午前				午後		
	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	17:30	
第1日目			受付	開講式 オリエンテーション (施設見学含む)	講義1 「あかりの家の自閉症支援」(施設長)	意見交換	懇親会
第2日目	臨床実習1 あかりの家	休憩	事例検討 ーリハビリ的ショートステイー		講義2 「行動障害のある人たちへの支援 ー自閉症療育のキーワード集を通してー」(施設長)	まとめ 意見交換	
第3日目	臨床実習2 1班ーワークホーム高砂 2班ーあかりの家	休憩	臨床実習3 あかりの家		講義3 「発達障害者支援センターにおける取組」(センター長)	まとめ 意見交換	
第4日目	臨床実習4 1班ーあかりの家 2班ーワークホーム高砂	休憩	臨床実習5 地域支援センターあいあむ		臨床実習6 児童デイサービスあかりの家	まとめ 意見交換	
第5日目	臨床実習7 あかりの家	休憩	まとめ 意見交換	閉講式			

【臨床実習内容】 あかりの家 ー引継・ランニング・作業・トモニ活動・体操活動等
ワークホーム高砂 ークリーニング事業を実習
地域支援センターあいあむ ーA市市立支援協議会「自閉症の方の防災支援」参加
児童デイサービスあかりの家 ー障害児療育支援を実習

- 和やかで率直な意見交換ができる雰囲気作りを意識し、初日夜に懇親会を設定しました。お互いが言いにくいことの中に、“支援の大事な要素”があるとの考えからです。親近感が持たれた中で、現場に入っただき、意見交換を連日行ないました。

3. 研修を終えて ー参加者の声ー

あかりの家で研修を受講され、その実習報告を10枚以上書いていただいた方がいらっしゃいました。

この実習報告は回覧され、その表紙に「外交辞令があるにしても、我々以上に我々のことを知り、理解し、それを文章化している！ありがとう」と三原施設長のエンピツメモが書き添えてありました。

今回の15名の方々の受け入れは、私たちにとっても、改めて自分たちの実践を客観的に捉えなおす機会となりました。いくつか指摘もいただきました。こういったやりとりは、やはり実務研修ならではの醍醐味だと思います。よい機会を与えていただき、ありがとうございました。

その方の実習報告からの抜粋です。

「実践の臨床実習でも感じたが、あかりの家では非常に多くのスーパーバイズを受けている。自分たちの取り組みを様々な角度から多面的に検証している様子が伝わった。この『おごり』のない姿勢こそが、自閉症療育の基礎であろうと学び、反省する。特に重度の知的障害を伴う自閉症の人たちは、自分の生きにくさを自分で表現しにくい。その心に気持ちを寄せ、様々な視点から取組みを検証し、謙虚さと信念を持って実践を積み重ねている実践に感銘を受けた。」

あかりの家 自閉症療育のキーワード集(12)

「第21回あかりの家事例研究会」研究誌より

<実践の中で得たエッセンスをことば>にし始めて13年になる。以下、『第21回あかりの家事例研究会』(’15.2)研究誌の「あかりの家自閉症療育のキーワード集15年度版」からの抜粋である。

新3 一緒に料理をしてみたら 一偏食を巡って

全国自閉症者施設協議会のスーパーバイザー養成研修で、全国から実地研修生を受け入れた。その時「UFO やきそばしか食べない利用者の方が居る」という話が出た。

この2年程、トモニ活動で料理作りを重ねてきた。一緒に料理を作れば、その方と色々な話ができるし、意識せずに色々な食材にも触れられる。そして、自分で作った料理を、楽しく職員と一緒に食べることができた。だから自然に「一緒に料理をしてみれば!？」と言葉が出た。すると、「おお!ほんまや」と声が上がった。

そして直後「それキーワードに書け!」と園長から声がかかった。
(14.原谷)

新5 先輩が黒子になって支えていただいた

Aさんについては、S先輩による感動的なキーワードがある。新人1年目、そうなりたいと一生懸命関わり始めた。

しかし、居室を訪ねる度に出て行かれた。“嫌われないように”をいつも意識しながら、声掛けを繰り返した。それでも部屋から出ていかれ、正直、部屋を訪ねるのがイヤになった。

2か月目の5月、他施設のバザーで、さをり商品を販売することになった。当日は早く、おにぎりをコンビニで買い、Aさんは車中で、お茶で流し込むようにして食べていた。

バザー会場では人ごみの中、太鼓の音が飛び込んでくる。その会場で商品を売った。Aさんは、背中を向け、時計を何度も気にしていた。帰園後の夕食は苦しい顔で、朝と同じく流し込むように食べていた。後で聞いた話であるが、“嘔吐しそうだ。させてはまずい。このままでは崩れてしまう”と直感したS先輩が助けに入ってくれた。

Aさんにとっては、バザー会場は相当なストレスだったのだ。時計を気にしていたのは「いつ帰れるのか」のサインだったのだ。せめて「〇〇時に帰るからねー」と声をかけてあげたらよかった。あらかじめ苦手なことを教えてもらっていたのに、悔しくて情けなかった。

他にも、S先輩には色々背後で支えていただいた。部屋から出た時は「Gさんが遊びに来てくれたのに、また出て行ったやろ!困ったことがあったらGさんに言うんやで」と言っていたに似ていた。

そうして次第に、Aさんは、私の目を見て話を聞いてくれるようになった。部屋を訪ねて行っても出られることは激減した。振り返ってみると、一方的で、独りよがりではなかった。

しかし今「ハンドクリーム買ったけど、どうせ塗らんつもりでおるんやろー」とチョッカイ的に話しかけると、「見抜かれた」という感じでニヤッと返してくれる。嬉しい。
(14.後藤)

新9 どうなったの!お母さんは?

帰省中のJさん、毎日午前午後、脅迫的に散歩に出る。母親は痛めている膝をかばいながら、必死で後を追いかける。

1年半ほど前の夏季帰省中、炎天下の午後、散歩に出かけた。彼の後を追っていた母親は、ついに暑さと疲労で彼の少し後方で倒れた。彼は、母親が救急車で運ばれていった姿を見ながら自宅に帰った。そして、期末全体会の最中のあかりに連絡が入り、職員の迎えてJさんは帰園した。

相談員としての私は、翌日、母親に会うために自宅を訪問した。回復した母親は、Jさんの事を心配し、忘れていたベルトを預かった。救急車で運ばれて以降、お母さんに会っていないJさん。あかりに帰った私はJさんの横に座り、丁寧に「Jさん、さっきお母さんに会いに行ってきたよ。」と話を始めた。

実は、7年前に支援員をしていた時、私はJさんにとって全く無視で

きる存在であった。そのJさんが、私が話を始めた瞬間、左右に振っていた首を私の方にきゅっと向け、呼吸を止め、目を見開いて私の目を見つめた。そして「お母さんは元気になって家に戻られてましたよ。お母さんも、Jさんが元気になっているか心配してましたよ。」と伝えると、今度は「スーッ」と息を吐く音が聞こえた。

預かったベルトを出し「お母さんから預かったので着けていて下さいね。」と渡すと、苦手としていたはずのベルトを素早くつけた。

あれから1年半、今では、私が挨拶をするとJさんは…以前とかわらず、こちらを見ることも、目を合わせることもない。

(14.石井)

新14 “残念なことはあるけれどそれでも良かったね、に導いていく”

Nさんとは、食事場面で躓きやすい。その事で「大きな声を出さないで!」「(食器)投げるん?」といった否定的な声掛けが多くなる。彼女から出てくる言葉も「私、悪い」や「しない」等が目立った。

2年ほど前から安定剤を服用し始めた。薬だけに頼りたくないし、今のうちに前向きな関係を作りたいとの思いで、頑張りシールをためて「大好きなコーンスープを食べよう」ということにした。

そんな頃、河島先生から「色んな辛いことはあるけども、それでも良かったね」という結論に導いていくことが出来るし、それが感謝。そういうものを導くような会話を出来るようになって欲しい。感謝の気持ちをもっている人は絶対不幸ではない。」といったアドバイスを頂いた。

プラス思考なら私にも自信がある。影響されやすい人だから、私のプラス思考も上手くいくはず。とにかく、彼女のマイナス思考に引っ張られない負けなさいと、心に決めた。

その内、問題の出やすい食事場面で「コーンスープ、シール貼ろうな」と、前向きな言葉が出始めた。頑張っただけで食べようとする姿も見られ始めた。

去年のこと、誕生日に2人でインドカレー屋さんに行った。お皿を投げられないように、表情や手の動きを警戒しながら、何事もなく食事は進んだ。そして終り頃?「いらん」と言葉が出たが「せっかくだから食べて」と勧めた。その時、お皿を投げかけた。

帰りの車中「なんで投げたんせっかくお祝いに来たのに。もう知らん」と言いかけた時、河島先生の言葉が浮かんできた。一転「一緒に食事が出来て嬉しかったね。外食できるようになったんだもんね。」と切り替えた。

後日、Nさんから「インドカレー」と言ってきた。オウム返しが多い彼女からの言葉に驚いた。そして、「あの時、怒ったままだったら散々な誕生日にしていた」と、心底思った。

そして今年、リベンジも含め、女子職員を誘って同じ店に行った。そして「Nさんとピリピリせずに食事が出来るなんて」と話をしながら、誕生日会を楽しんだ。
(14.眞鍋)

新30 カレー作りへの思い

料理は、優れた療育内容の詰まった宝庫です。生きる力を育み、親子の関係を深め、自己肯定感を高め、責任感や感謝の心を育て、今を豊かな充実した生き方へと導きます。

4年前より、トモニ療育センターから河島先生と高橋先生にスーパーバイザーとして来ていただいています。

最初の「料理は、・・・」のメッセージは、先生のお話です。そうして昨年4月より、利用者の方々の料理作りに取り組み始めました。

それが、いつの日か、「お父さんお母さんに食べていただく」との思いにつながって、保護者参加の夏祭りのメインテーマ「おもてなし」として実現することになりました。

ピーラーを持つ真剣な目、お肉を入れる時の嬉しそうな表情。分りやすく手順が書かれたレシピと写真を見ながら「お父さん・お母さんに喜んでいただければいいですね」と話しながら、100人分のカレーを作りました。

それにしても、今まで気づけなかった利用者の方々の皆さんの一面を見せていただくことは、とても嬉しいことでした。

「もてなすことが出来、感謝される存在になり、人のために働く喜びを知ってほしい。」(河島先生)今回、そんな思いを込めて作りました。

「利用者の方々が、お家で料理をして振る舞い、ご家族の方々と一緒に料理を囲んで食事をとれる日が来ればいいなあ」と考えています。

二コ二コで、素敵な食事になりますように。次につながりますように。夏祭り当日の、テーブルの上に添えたメッセージ(抄)より

(14.原)

あかりの家イロイロ情報局

短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ2,988日の利用がありました。

児童デイサービス事業

自閉症や発達に遅れのあるお子さんの将来を見すえて、大人になったときに自分らしく社会の中で生きていくことができるよう、個別療育や集団療育をととして「発達の花」を育てる事業です。

障害児等療育支援事業

在宅障害児（者）及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I：お宅にお伺いしてご相談をお受けします。
- II：あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。
- III：通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。

（在宅支援訪問療育等指導事業）

（在宅支援外来療育指導事業）

（施設支援一般指導事業）

療育相談

お気軽にお電話ください!!

TEL 079-254-3292

FAX 079-254-3403

亀山まで

親子体操教室

お母さんが、子どもの身体に働きかけながら、バランスある受容と主導の力をつけ、親と子のくよい関係を作るための応援もしております。

ワークホーム高砂 手づくり納豆

ワークホーム高砂が製造・販売している手づくり納豆は、スーパーYAMADAの3店舗で生産者直売商品として販売しています。スーパーYAMADA阿弥陀店に、月に1度、利用者が出向き、試食販売をしています。

自閉症専門図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出しています。

あかりの家 さをり班

ナイスハートバザール

今年も高砂アスパの協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。また、さをり織りの実演、体験もいただけます。是非とも足をお運びください。

日時：12月12日（土）・13日（日）

場所：高砂アスパ セントラルコート

販売・出店 是非お立ち寄りください。

販売所：高砂駅前観光案内所ちちり

ヘアサロン采（アヤ）

出店：東はりま県民局チャレンジショップきずな



地域交流ホームの開放

あかりの家では、地域福祉の活性化のために、地域交流ホームを、障害のある方たちの活動や、ボランティアグループの会議などにご利用いただき、施設と地域との交流の場として開放しています。

社会福祉法人 あかりの家の状況（H26年度）

〈社会福祉法人 あかりの家 利用者状況〉（平成27年4月1日現在）

あかりの家	〈施設入所 定員40名、現員40名(男32名、女8名)〉 〈生活介護 定員40名、現員46名(男36名、女10名)〉	1. 出身別利用状況	高砂市(34) 加古川市(23) 姫路市(13) 播磨町(7) 加東市(1) 神戸市(9) 尼崎市(2) 小野市(2) 県外(2)
ワークホーム	〈定員40名、現員46名(男35名、女11名)〉	2. 年齢	あかりの家 最年長60歳、最年少19歳、平均施設入所43.1歳 生活介護42.2歳
グループホーム	〈定員12名、現員6名(男5名、女1名)〉		ワークホーム 最年長79歳、最年少18歳、平均就労B型31.1歳 生活介護39.8歳
			グループホーム 最年長79歳、最年少41歳、平均56.1歳

編集後記

あかりだより初！カラーでお届け致しました。配色などセンスが問われ、あかりだより担当大汗をかきました（笑）それはさておき、今年、法人で2つ目のグループホーム“オリーブの家”が誕生しました。取材をして実感した事ですが、テーマの一つの自立を目指して頑張っておられるな、頑張っている姿はやっぱりいいなあと思いました。法人内、各々分野は違いますが、取り組んでいる利用者・職員の姿を見、話を聞く事ができ、自分の施設では味わえない刺激を受けました。普段からもこういう話ができたらいいなあと考えたと同時に“私も頑張ろう”と思いました！ (K・H)

社会福祉法人 あかりの家

障害者支援施設 あかりの家
児童デイサービス あかりの家
地域支援センター あいあむ
知的障害者通所授産施設 ワークホーム高砂
グループホーム 希望山荘日笠
グループホーム オリーブの家
ひょうご発達障害者支援センター クローバー

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403
URL <http://homepage2.nifty.com/akarinoie/>
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403
E-mail akarinoie@nifty.com
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)254-3292 FAX (079)254-3403
〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079)280-3740 FAX (079)254-3403
E-mail aiaamu@mbr.nifty.com
〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL (079)449-0701 FAX (079)449-4111
E-mail workhome@nifty.com
〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL (079)447-3136 FAX (079)447-3136
〒676-0822 高砂市阿弥陀町魚橋375-16 TEL (079)439-7183 FAX (079)439-7183
〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL (079)254-3601 FAX (079)254-3403
URL <http://auc-clover.a.la9.jp/> E-mail auc.clover@nifty.com